



◎理 事 會

昭和十七年六月十二日午前十一時麴町區丸内二丁目帝國鐵道協會々館に於て開會、水野會長、新居常務理事、佐上常務理事、箕氏、辰馬氏、長岡氏、牧氏、青山氏の八理事近藤氏外三幹事出席。昭和十六年度事務報告、昭和十六年度歲入歲出決算報告、昭和十六年度基本財產收支決算報告、昭和十六年度特別積立金收支決算報告、財產報告は滿場一致之を承認し、次で評議員會に對し特別會員に内務技監鈴木雅次氏、内務省國土局道路課長岩澤忠恭氏、内務省横濱土木出張所長和田重辰氏を推薦可決、次で總會に對し評議員十名を選舉すべき旨を告げ、議長一任に決す（議長は挾間茂氏、長谷川勝伍氏、大石義郎氏、田中廣太郎氏、藤井眞透氏、坂本一平氏、田中好氏、鈴木雅次氏、岩澤忠恭氏、和田重辰氏を指名す）更に評議員會に對し理事六名互選すべき旨を告げ、議長指名に決す（議長は、藤井眞透氏、田中好氏、鈴木雅次氏、岩澤忠恭氏、三浦七郎氏、岡埜昇氏を指名す）次で總會並評議員會に對し、昭和十七年度歲入歲出總豫算の報告を爲し之を承認す。次で評議員會に對し基本財產費消の件を附議し之を可決す。決長岡理事より積極的事業遂行の希望あり、平井幹事より評議員豫算の件及基本財產費消、特別積立金費消の件を附議し之亦可決長岡理事より積極的事業遂行の希望あり、平井幹事より評議員豫算の件及基本財產費消の件を附議し之亦可決す。

挾間氏外六名、理事挾間氏外二名任期満了の旨報告あり、午餐を共にして散會。

◎第二十三回定期會員總會並評議員會

昭和十七年六月十二日午後二時、麹町區丸内二丁目帝國鐵道協會々館に於て第二十三回定期會員總會並に評議員會を開く、定刻に到り水野會長議長席に就き開會の旨を宣して、先づ同一事件

に付ては總會並に、評議員會を併合開會する旨を述べて議事に入る。昭和十六年度事務報告、昭和十六年度歲入歲出決算報告、昭和十六年度基本財產收支決算報告、昭和十六年度特別積立金收支

決算報告、財產報告は滿場一致之を承認し、次で評議員會に對し特別會員に内務技監鈴木雅次氏、内務省國土局道路課長岩澤忠恭氏、内務省横濱土木出張所長和田重辰氏を推薦可決、次で總會に

對し評議員十名を選舉すべき旨を告げ、議長一任に決す（議長は挾間茂氏、長谷川勝伍氏、大石義郎氏、田中廣太郎氏、藤井眞透氏、坂本一平氏、田中好氏、鈴木雅次氏、岩澤忠恭氏、和田重辰氏を指名す）更に評議員會に對し理事六名互選すべき旨を告げ、議長指名に決す（議長は、藤井眞透氏、田中好氏、鈴木雅次氏、岩澤忠恭氏、三浦七郎氏、岡埜昇氏を指名す）次で總會並評議員會に對し、昭和十七年度歲入歲出總豫算の報告を爲し之を承認す。次で評議員會に對し基本財產費消の件を附議し之を可決す。議長は之れにて報告及び附議事項を終りたるを以て閉會する旨を宣し散會。

◎特別會員

本會に於て去る六月十二日左の三氏を特別會員に推舉した。

内務技監 鈴木 雅次氏

内務省國土局道路課長 岩澤 忠恭氏

内務省横濱土木出張所長 和田 重辰氏

◎評議員

本會に於て去る六月十二日左の諸氏を評議員に推舉した。

鈴木雅次氏

岩澤忠恭氏

和田重辰氏

挾間茂氏

藤井眞透氏

田中好氏

長谷川勝伍氏

大石義郎氏

田中廣太郎氏

坂本一平氏

道路功績者表彰に關する件

道路功績者表彰規程に據り道路の改良、維持修繕並に道路愛護事業の普及に關し功績顯著なる者に對して表彰したるは北海道、茨城、靜岡、滋賀、岐阜、福島、宮城、群馬、山形、秋田、愛知、奈良、廣島、島根、神奈川、和歌山、德島、宮崎の一一道十七縣の道路工夫八十六名、道路愛護會其の他三十四團體にして相當の成績を收めたり。

出版物に關する件

軌道法は大正十年四月法律第七十六號を以て制定せられ、其後幾多の改正を加へ且關係法令中改正の事項も鮮かならざるに付軌務上の便に資せむが爲、軌道法並關係法令を印刷し之を關係方面に頒布したり。

道路工夫被服地配給に關する件

道府縣道路工夫等被服地（純綿布）は入手し難き状態なるを以て之を配給するは、寛に時局炳適切なる措置なりと認め、商工省當局と協議の結果、日本特免綿織物元配給株式會社と契約を締結し、九百八十七反を購入し、之を實費にて一道三十三府縣に配給したる處多大の好評を博したり。

技術者を獨逸伊太利等に派遣方建議に關する件

高度國防國家建設の建前より道路の構造と防空施設の關係を調查研究するの必要を認め、技術者を獨逸、伊太利等に派遣せられ

◎昭和十六年度事務報告

んことを内閣總理大臣、大藏、内務、陸軍及海軍の各大臣及企畫院總裁に建議したり。

技術者海外派遣に付寄附に關する件

道路の構造と防空施設の關係等を視察研究の目的を以て技術者を獨逸、伊太利等に派遣の儀、神奈川縣都市計畫委員會に於て決定したるに付、本會より其の調査費及旅費として金三千五百圓を寄附致度旨願出で其の承認を得たる處、獨逸とソビエット聯邦との間に戰爭勃發し旅行不能となりたるを以て右寄附の儀一應取消の手續を了了したり。

財務處理規程中改正に關する件

本會經理上の實情變化し一般會計と特別會計とに區別するは、却つて複雜に涉り手數を要するを以て、之を簡易に處理せむが爲財務處理規程に改正を加へ、一般會計及特別會計の區分を廢止したり。

昭和十六年十月二十八日湯澤内務次官、更に同十七年二月二十日山崎内務次官に副會長を委嘱したり。

昭和十六年四月二日相川愛知縣知事に、同年五月十九日山越拓

務省管理局長に、同年十月二十八日成田内務省地方局長、今松内務省警保局長、新居内務省國土局長に、同年十二月一日鈴川朝鮮總督府司政局長に、同十七年一月七日佐藤鐵道省監督局長、堀木

鐵道省運輸局長に、同年一月十五日野田神戸市長に、同年一月二十八日上田内務省防空局長、松村東京府知事、近藤神奈川縣知事に、同年二月二十七日佐藤名古屋市長に、夫々特別會員並評議員を委嘱したり。

會員加入勧誘に關する件

國策に順應して本會使命の達成を期せむが爲め、會務の振興を圖らざるべからざるの情勢に立ち至りたるを以て、未だ本會に加入せざる市町村及各地の自動車運輸會社等に對し、本會より直接加入方を勧誘し、且府縣知事に其の加入に付援助方を依頼したる處多大の成績を擧げたり。

會員の狀況に關する件

昭和十六年度末に於ける會員數は千三十五名、又贊助員は三千四百七十二名にして前年度に比し、會員は四十七名を増加したるも十七名の退會者あり、差引三十名を増加し贊助員は十九名を減じたり。

雑誌發行に關する件

機關雜誌「道路の改良」は用紙の統制上、其の紙數を減ぜられたるを以て編輯に困難を感じたるも、資料の選擇に意を用ひ時局

に即應して内容の充實に努め、所期の目的に副はんことを期したり。

◎會長水野鉢太郎氏

翼賛政治會に於ては貴族院議員水野鉢太郎氏を同會の顧問（外六名）に選任した。

◎理事田中好氏

衆議院議員田中好氏は六月十日商工省委員を仰付けらる。

◎横綱と大關

安藝ノ海照國は横綱に名寄岩は大關に決定した。

◎東京急行電鐵株式會社

東京横濱電鐵株式會社、京濱電氣鐵道株式會社及小田急電鐵株式會社の三社合併し、五月一日より東京急行電鐵株式會社と改稱し、五島慶太氏取締役社長として就任。

◎内務省土木試驗所に於ける談話會

學術講演大會

昭和十七年五月三十日（土曜日）午後一時東京市本郷區駒込上

富士前町内務省土木試驗所講堂に於て

講

開會の辭（一、二〇〇）

積雪の力学（一、一〇〇）

積雪の通氣度について（一、三〇〇）

同

演

理事長

平田德太郎

黑田正夫

理化學研究所

高橋敏男

同

講

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

演

雪の凍結に關して（一、四〇）

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

橋の抵抗について（一、五〇）

同

同

積雪の壓縮性について（一、〇〇）

同

同

雪性試驗雜報（一、一五）

同

同

雪塊の衝擊（一、三〇）

同

同

休憩

憩

建物周圍の吹溜り積雪に關する模型實驗について（三、〇〇）

同

同

冬期屋内照明（三、一五）

同

同

鐵道と防雪（三、三〇）

同

同

鐵道省工務局川瀬源一

同

同

道路除雪に關する一試驗（三、四五）

同

同

土木試驗所村上永一

同

同

結氷と港灣工事に就て（四、〇〇）

同

同

石井靖丸

同

同

ハルピンに於ける松花江の解冰期日に就て（四、一五）

同

同

畫（四、三〇）

同

同

畫（四、三〇）

同

同

積雪期の乘鞍岳

同

同

問題會議總會に於いては第八回全國都市問題會議總會を開催することとなつたので左の通り發表する所があつた。

一、開催期

昭和十七年十月二十二日（木）ヨリ三日間

一、開催地 神戸市神戸商工會議所

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

一、議題

第一議題地方計畫具體化ニ關スル諸問題

一、地方計畫ノ理論ニ關スル問題

二、地方計畫ノ策定ニ關スル問題

三、地方計畫ノ法制ニ關スル問題

四、地方計畫ノ實施運營ニ關スル問題

五、地方計畫ノ財政ニ關スル問題

六、特に京阪神地方ニ於ケル都市計畫ノ具體的問題

第二都市財政ノ現狀及將來ト其ノ對策

一、都市財政ノ現狀

二、國費地方費負擔區分ノ問題

三、新稅制ノ適否並ニ之カ改正ニ關スル具體案

四、稅外收入ニ關スル問題

五、市債發行ニ關スル問題

六、都市財政ノ臨戰態勢化ニ於ケル都市財政ノ地位

一、議事方法 兩議題ニ關スル報告者ノ報告ニ次テ部門ヲ各議

題關係ニ分ケ參加會員ノ討議ヲ行フ

一、主報告者 第一議題 都市計畫東京地方委員會技術部

慶應義塾大學教授 奥井復太郎氏

石川 榮耀 氏

第二議題 京都帝大教授 沢見 三郎氏

名古屋市助役 三樹樹三氏

一、總會々費 參加者一人ニ付抬圓 參加申込と同時に納入

◎南方技術第一輯 大東亞技術研究會彙報

南方問題は現下各方面より研究すべきものである。武力戰に於て勝利を獲得するとも、文化經濟政治等の方面に於ての勝利を獲得せざれば、現地に於ける多數將兵の勞苦は水泡に歸する次第である。

大東亞技術研究會が「南方技術」を行したるは、専ら技術方面の研究を爲し以て南方政策に貢献せんとするに外ならないのである。其の第一輯に收むる所を見るに「カムベラの都市計畫」「中央アジアの利水事業と棉作」「東印度開發計畫に關する私案」「南方湖沼の包藏水力」「東亞南方共榮園の地下資源に就いて」「建設資料としての南洋樹木」等々何れも適切なる文献である。尙次輯以下に於て吾人の期待する所少からざるものがある。

◎近刊圖書雜誌 寄贈交換

○河川（第一卷五號）

○汎交通（五月號）

○清和（第九卷五號）

○支那に於ける合夥組織の研究（山内喜代美著）

○興土（第一卷二號）

○石油時報（五號）

- 鐵道軌道經營資料（定期會員總會誌、五月號）
- 土木試驗所報告（第六五號）
- コングリート及鐵筋コンクリート集覽（昭和十五、十六年分）

- 土木學會誌（第二八卷五號）
- 電氣通信學會雜誌（第二三〇號）

- 斯民（第三七編、五號）

- 土木瀬洲（第二卷二號）

- 自警（五月號）

- 土木工業（第四卷第五號）

- 大東陸（六月號）

- 鐵道之研究（四、五月號）

- セメント界彙報（第四一號）

- 水道協會雜誌（第一〇九號）

- 港灣（第二十卷六號）

- 法律時報（第一四卷六號）

- 企畫（第四卷一二號）

- 大阪（第一八卷六號）

- 觀光（五月號）

- 地方政府（同支版第九卷六號）

- 都市問題（第三四卷六號）

- （齋崎敏雄氏——交通上より見たる南方諸都市）

必勝の貯蓄兵 本間一咲氏作

一、僕の貯金が債券があひえるそれだけたくましく負けるもののかの血がたぎる

二、君の貯金が節約がああ勤儉のちから瘤が花と咲くのだみのるのだ

三、共に銃車こそとらないが
國に迴る我らは貯蓄兵で勝ち抜け長期戦

四、胸にあふれ興亞の決意御奉公に
築くあふるの日の大詔

ぬいて